早稲田大学 オープンカレッジ　2025年11月08日

台地と崖 ～赤羽の地形と歴史 ～

地形で見る東京：その魅力と謎

【寄藤 昂】

はじめに

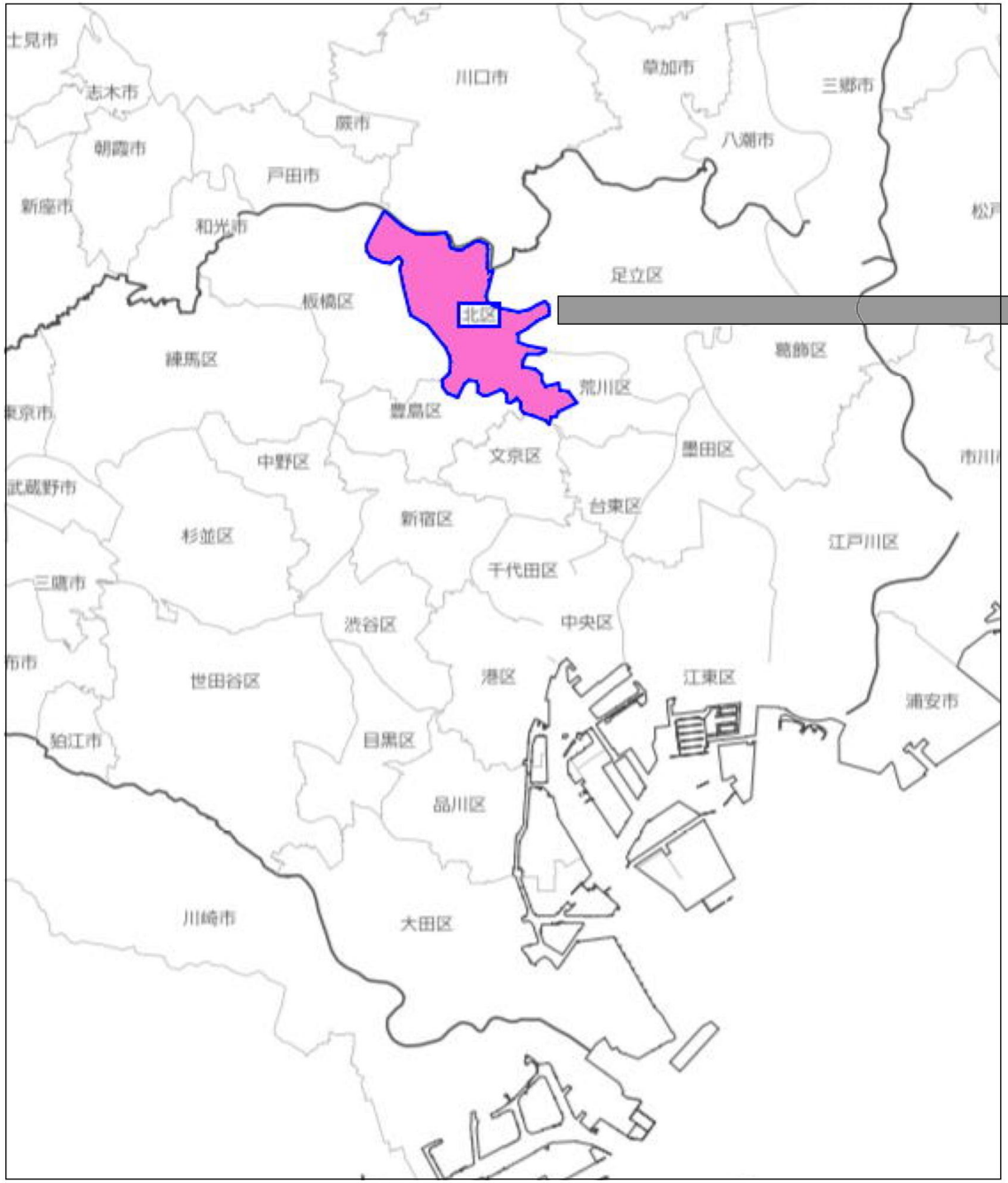
北区の人口（令和7年10月1日現在）

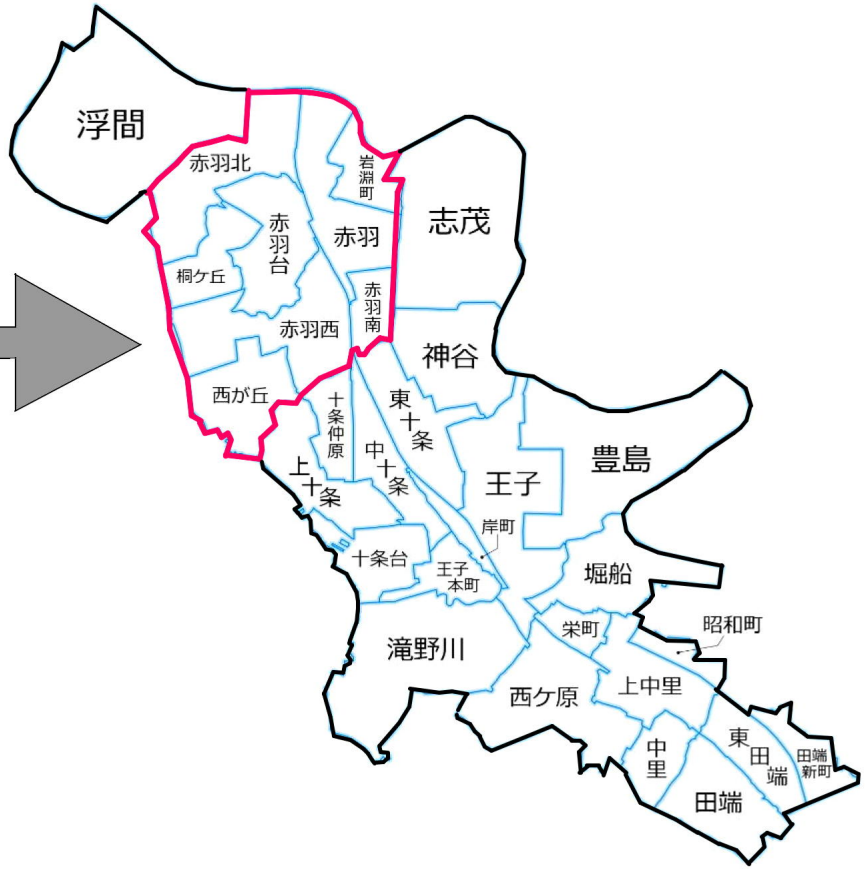
総人口	367,396	前月比	＋431
日本人人口	332,682	前月比	＋9
外国人人口	34,714	前月比	＋422
外国人比率	9.45%		
14歳以下	37,251	（10.14%）	
15歳～64歳	246,465	（67.08%）	
65歳以上	83,680	（22.78%）	

赤羽地区の人口（令和7年10月1日現在）

総人口　　79,280　前月比　＋111
北区の　　21.57%（面積比は 23.56%）

ただし、2022年のデータだが
桐ケ丘一・二丁目の高齢化率
　　約 57.6%





東京都北区の位置と
“赤羽”の範囲

１．赤羽の歩み

　戦国時代、当時の江戸城主・太田道灌が現在の赤羽駅南西の台地の端に「稲付城」を築くが、後北条氏の砦となったのち廃城。

　1655（明暦元）年、道灌の子孫・資宗が「稲付城」跡地に「静勝寺」を建立、江戸期を通じて太田氏の菩提寺に。

　道灌250回忌の1735（享保20）年「道灌堂」造営。

　「赤羽八幡神社」も、江戸時代には太田家の庇護のもと赤羽根村、下村、袋村、稲付村、岩淵郷の総鎮守とされていた。

低地部では、江戸から明治初期まで日光街道の宿場であった「岩淵宿」が繁栄していた。

現在の赤羽駅付近にはわずかな集落（赤羽村）のみで、明治初期は浦和県の一部であった。

1871年（明治４）年11月14日に東京府北豊島郡に編入。

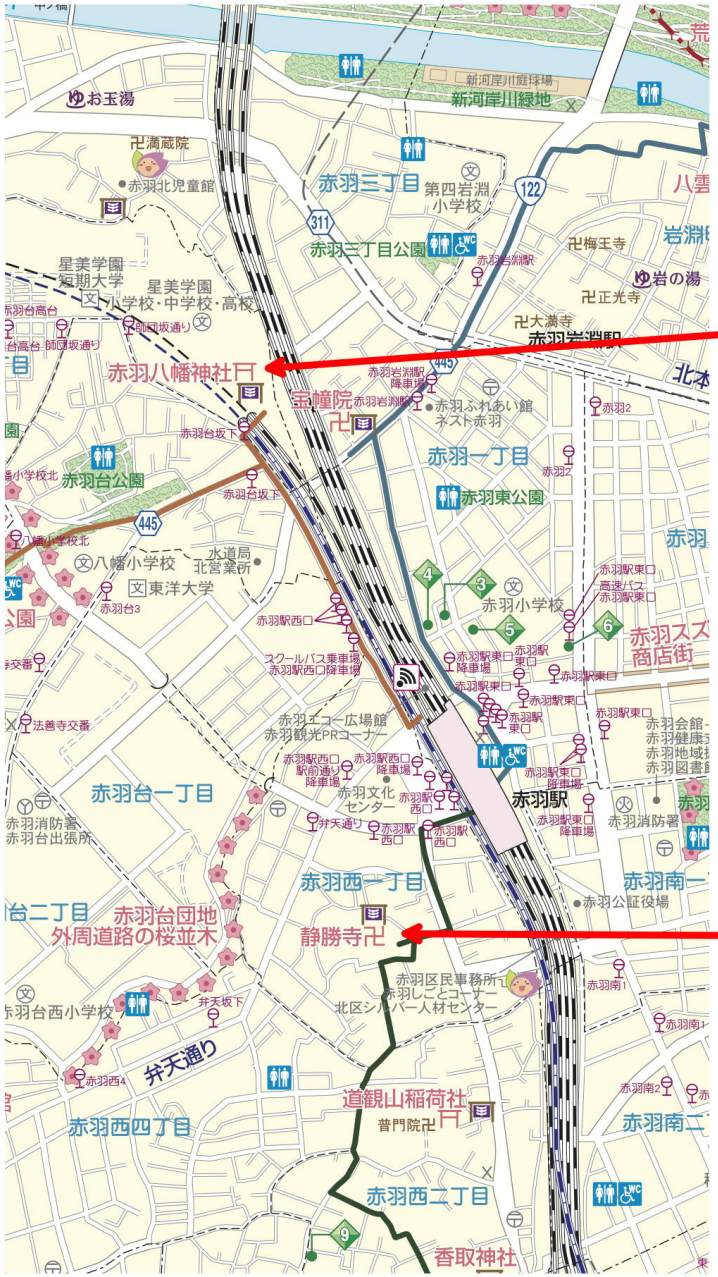
1883（明治16）年、鉄道が開通して発展が始まる。

1889年に岩淵町の一部となり、1932年に東京市王子区（現・東京都北区）に組み込まれた。

「静勝寺」は明治以降太田家との縁が切れて一時衰退したが、昭和に入ると付近の都市化とともに復興、整備されて今日に至る。

「赤羽八幡神社」は、1883（明治16）年、鉄道敷設によって宝幢院に続く敷地を分断。1887（明治20）年、陸軍工兵大隊の移駐先に社殿の後背地を供出。1908（明治41）年、稲付の兵器補給廠のため現参道に軍用鉄道敷設。その後、旧参道部分に赤羽貨物駅設置。1985（昭和60）年、東北新幹線・埼京線敷設のため、敷地直下にトンネル貫通。

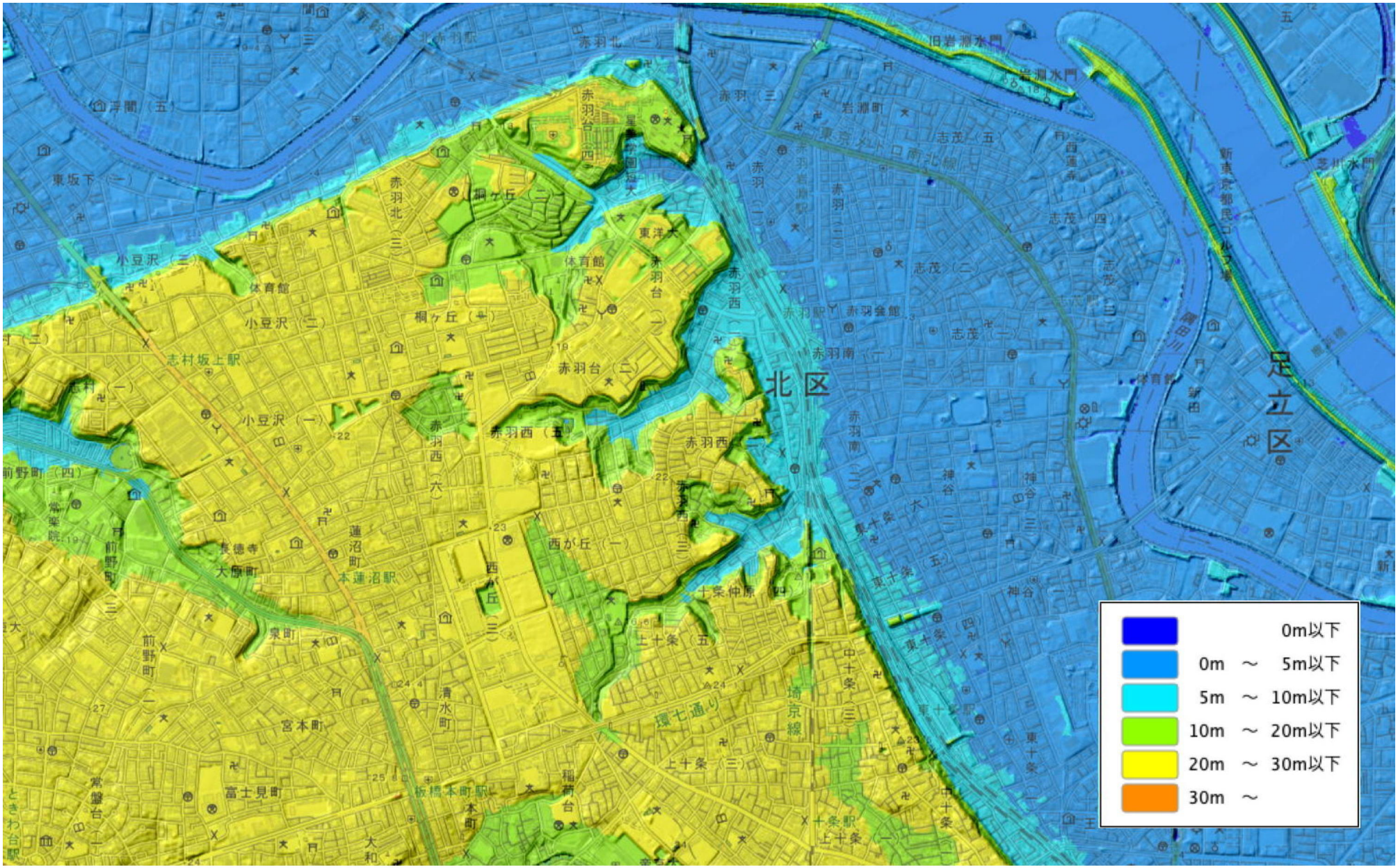
明治の初年ころには四千坪を有する雄社であったが、国策の影響で身を削られ続けた。


赤羽八幡神社
静勝寺
赤羽駅
赤羽三丁目
赤羽一丁目
赤羽台一丁目
赤羽西一丁目
赤羽西四丁目
赤羽西二丁目
赤羽台団地
外周道路の桜並木
弁天通り
新河岸川緑地
赤羽台公園
赤羽東公園
赤羽三丁目公園
赤羽岩淵駅
赤羽小学校
八幡小学校
東洋大学
星美学園
短期大学
第四岩淵
小学校
道観山稲荷社
香取神社
赤羽スズ
商店街

赤羽八幡神社

太田道灌公をお祀りする、
曹洞宗のお寺

静勝寺



赤羽地域の標高（地理院地図で作成）

3	堂山横穴墓
4	袋低地遺跡・袋町貝塚
5	赤羽台遺跡
6	赤羽台古墳群
7	赤羽台横穴墓群
8	桐ヶ丘遺跡
9	赤羽上ノ台遺跡
10	ミタマ古墳
11	天王塚古墳
12	大六天遺跡
13	島下遺跡
14	大塚古墳
15	稲付城跡
48	袋西浦遺跡
49	道合遺跡

赤羽周辺の遺跡一覧
（2015年４月現在）

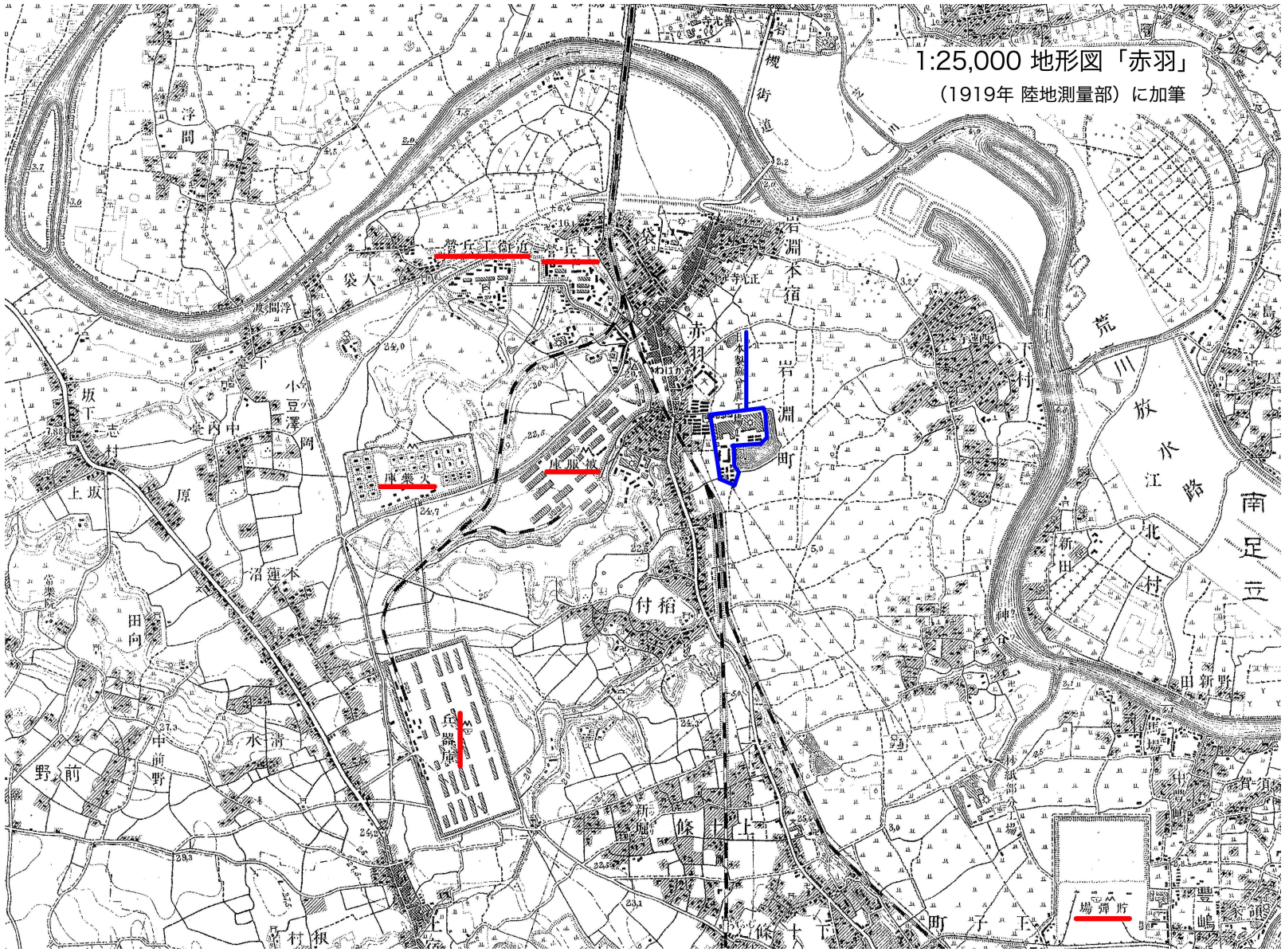
２．軍施設と工場の街へ

明治時代、鉄道が岩淵ではなく赤羽に敷設されたことにより赤羽駅が交通の要衝となり、次第に発展。

さらに1872（明治５）年に「赤羽火薬庫」設置。

続いて「東京鎮台武器庫」「赤羽工兵隊」「陸軍被服倉庫」など、陸軍の施設が次々と転入・新設・拡大された。

こうして軍関係の土地は（終戦時には）現・北区域の面積の約１割を占め、『軍都』と呼ばれるようになった。


1:25,000 地形図「赤羽」
（1919年 陸地測量部）に加筆
岩淵
赤羽
荒川放水路
南足立
兵器廠
被服廠
火薬庫
砲兵工廠
砲兵工廠近
本宿
岩淵町
新田
北村
付稲
新堀
條上
條下
町子
上坂
坂下
志村
小豆澤
沼田
水清
野前
中前野
浮間
袋
馬場
新田
豊島
家頭
貨須
場弾貯

■1886（明治19）年、陸軍「東京鎮台武器庫」設置
1906（明治39）年、「板橋兵器庫」と改称
1928（昭和３）年、「東京陸軍兵器支廠」と改称
終戦時の名称は「東京陸軍兵器補給廠」
■1887（明治20）年、陸軍「第一師団工兵第一大隊」と
「近衛工兵大隊」が赤羽に移転
２つの部隊を合わせて「赤羽工兵隊」と呼ばれた
■1872（明治５）年、兵部省が「赤羽火薬庫」設置
その後「東京陸軍兵器支廠」の所属に
■1891（明治24）年、「陸軍被服廠」の被服倉庫設置
1919（大正8）年、「陸軍被服本廠」が本所区から移転

陸軍被服本廠 1920年

【出典：このまちアーカイブス「王子・滝野川」】

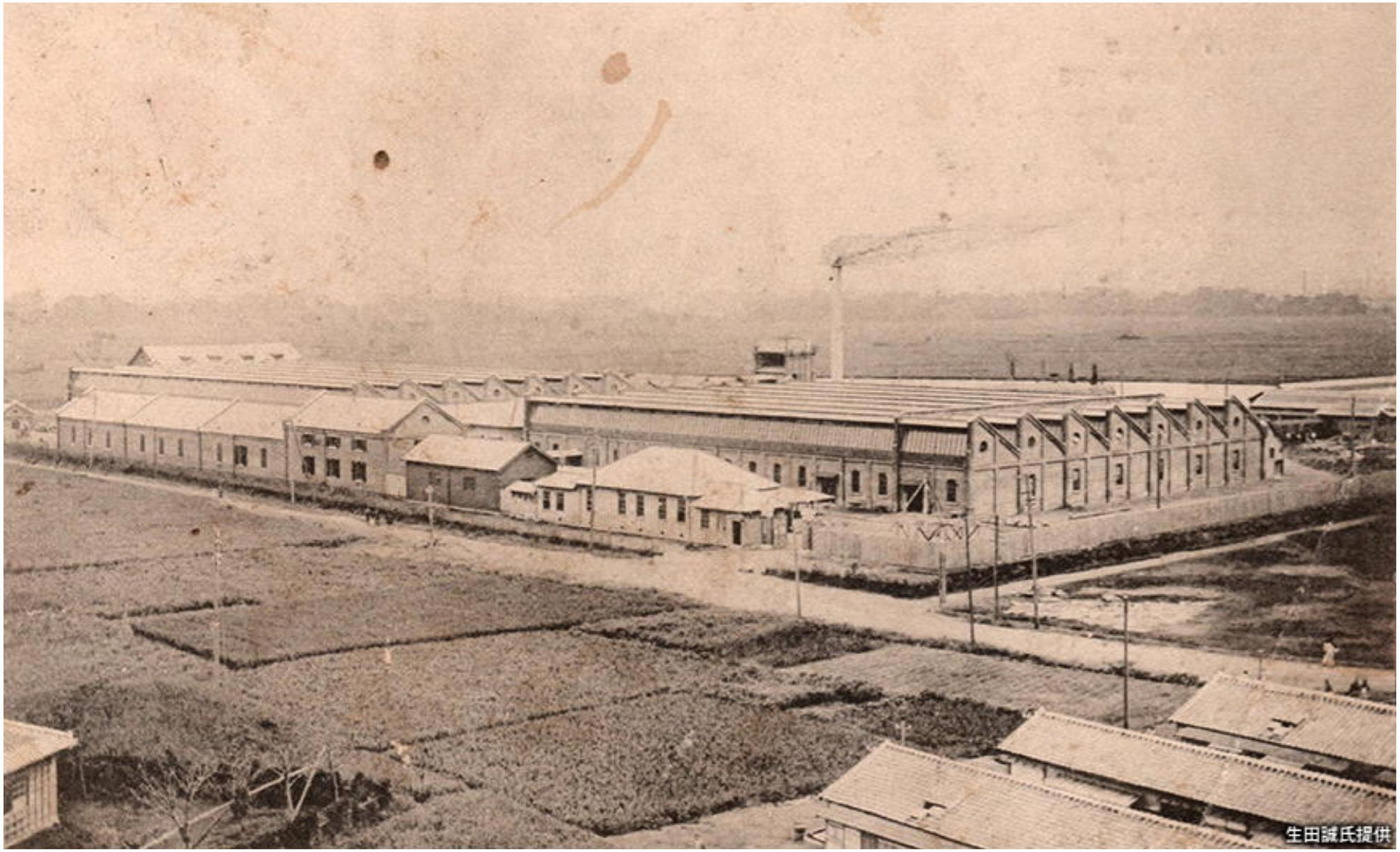
一方、東側の平野部では、

1914（大正3）年、地元住民の熱心な誘致運動によって「日本製麻 赤羽工場」開設。

工場は田圃の中に土を盛って建設され、南側には土を取った際にできた広大な池があった。

近代的な工場で最盛期には2千人以上の工員が働き、敷地内には社宅も整備されて多くの工員が暮らした。

「日本製麻」は大正期に急成長したが、1927（昭和２）年、不況の影響から「帝国製麻」に合併されて「赤羽工場」は倉庫となった。



日本製麻赤羽工場 1918年

【出典：このまちアーカイブス「王子・滝野川」】

戦時中の空襲で焼失した旧「赤羽工場」の敷地西側の一画には、1949（昭和24）年に「カトリック赤羽教会」が建設され、また銀行なども建設された。

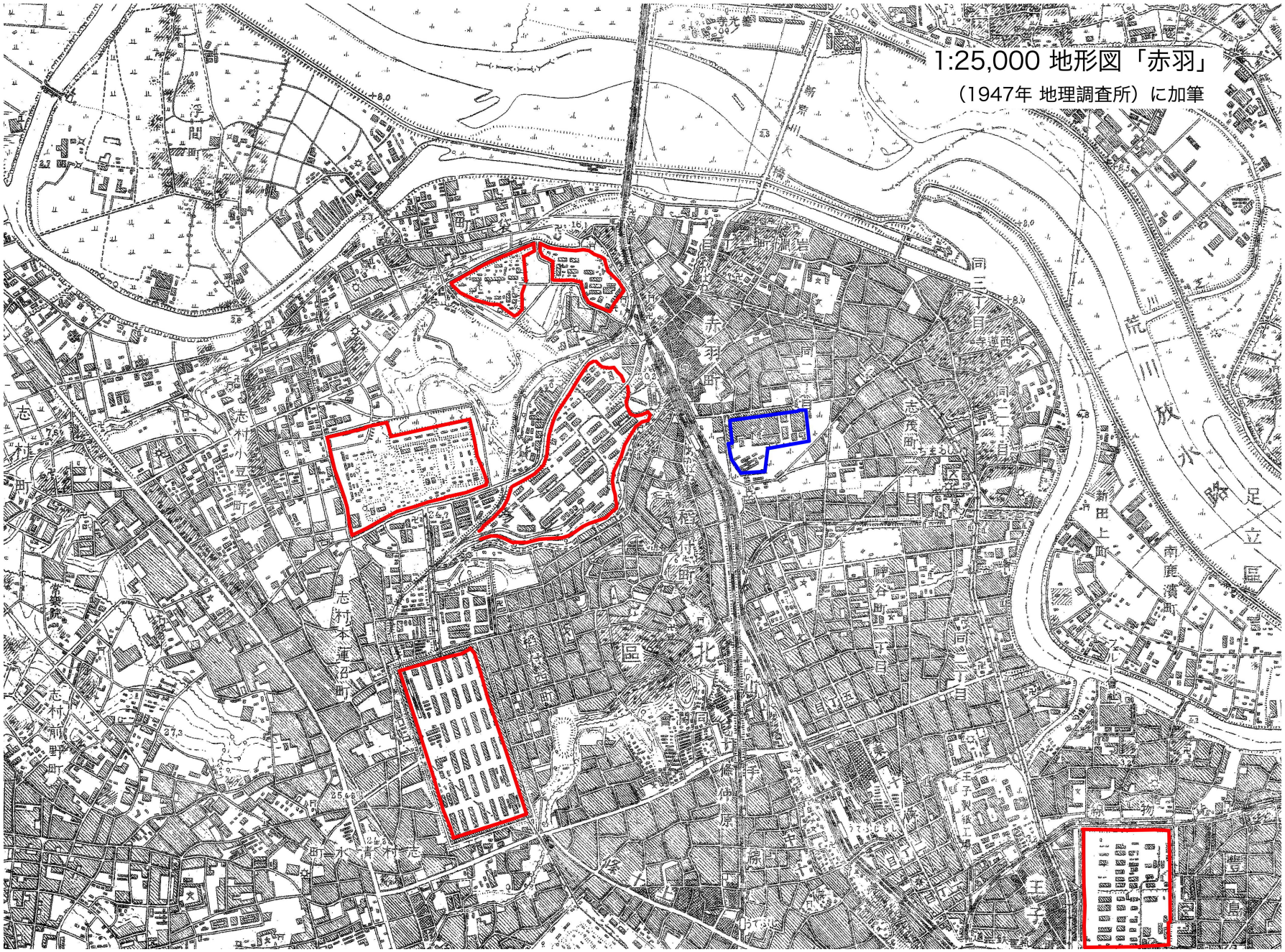
敷地の東側は戦後「日本染色」の工場となったが、それも1969（昭和44）年に移転、跡地には「赤羽ショッパーズプラザ」（現「ダイエー 赤羽店」）が開業した。

カトリック赤羽教会（教会HP）

終戦後には闇市が立ち、工場の労働者向けの飲食店も増え、東京23区北部では有数の繁華街に、1946（昭和21）年に「赤羽復興会商店街」が結成された。

また旧「日本製麻赤羽工場」の北側の道沿いにも商店が建ち並ぶようになり、その後「赤羽スズラン通り商店街」へと発展した。

1997（平成9）年、「赤羽スズラン通り商店街」に東京で最大という天蓋アーケードが完成し、現在は「LaLaガーデン」と命名されている。


1:25,000 地形図「赤羽」
（1947年 地理調査所）に加筆
赤羽町
志茂町
志村本蓮沼町
志村小豆塚町
志村前野町
志村水車町
浮間町
新田上町
南鹿濱町
王子
荒川放水路
足立区
北区

３．大規模住宅団地の街へ

　終戦後、旧軍関連の広大な土地・建物は「GHQ」による接収を受けた。

　「赤羽火薬庫」敷地内にあった約50棟の建物は、接収されたのち 1946（昭和21）年に返還、同年より戦災者や引揚者の住宅として使用されるようになり、約500世帯・2,000人が暮らす「赤羽郷（あかばねごう）」となった。

　接収が解除された後は自衛隊を含む公共的な施設の用地となった所が多く、その後の大規模団地の立地につながった。

■「陸軍被服本廠」

戦後は米軍が接収し、戦車修理工場として利用、1960（昭和35）年に返還。

1962（昭和37）年、跡地に建設された日本住宅公団 (現UR)の「赤羽台団地」入居開始。完成当時、23区内で最大となる3,373戸の大規模団地であった。

「赤羽台団地」は、2000（平成12）年から全面建て替え事業を開始、現在は「ヌーヴェル赤羽台」と呼ばれるようになっている。

赤羽台団地 1960年ごろ
【出典：このまちアーカイブス「王子・滝野川」】

旧赤羽台団地

■「赤羽火薬庫」

「GHQ」に接収されたが1946（昭和21）年に返還。

同年より、敷地内にあった約50棟の建物を戦災者や引揚者の住宅として使用することとなり、約500世帯・2,000人が暮らす「赤羽郷（あかばねごう）」となった。

1957（昭和32）年には「赤羽郷」地区も「都営桐ケ丘団地」の計画に編入、住民には優先的に団地の住居が割り当てられた。

「　赤羽郷」の跡地は、「都営桐ケ丘団地」のほか、「桐ケ丘中央公園」などにもなっている。

昭和30年代「都営桐ケ丘団地」の建設が迫る「赤羽郷」

■「赤羽工兵隊」

1952（昭和27）年、東京都は「赤羽工兵隊」の作業所、射撃場の広大な跡地に新たに住宅団地の開発を計画。

1955（昭和30）年に着工、同年内に「都営桐ケ丘団地」の最初の３棟が完成。

1976（昭和51）年には約5,000戸からなる大団地が完成した。

完成当時の風景

【出典：桐ケ丘一・二丁目地区の新しいまちづくり（東京都北区）】

完成時の桐ヶ丘団地

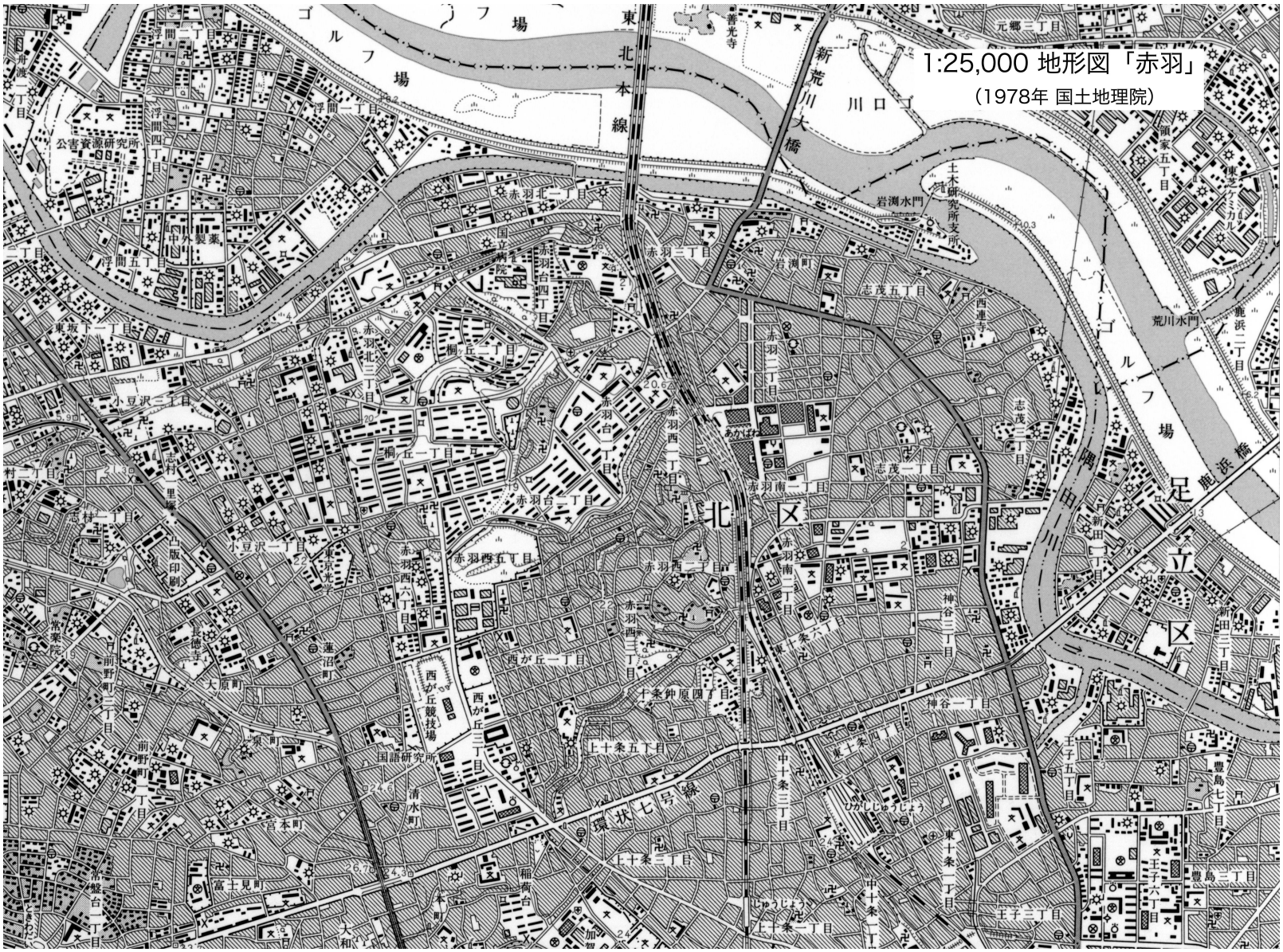
■「東京陸軍兵器補給廠」

　終戦後は米軍に接収され、「TOD（東京兵器補給廠）第1地区」として使用、1958（昭和33）年に返還された。

　返還後、跡地は公共施設・学校などに利用されることとなり、現在は「味の素フィールド西が丘」、「味の素ナショナルトレーニングセンター」、「国立スポーツ科学センター」などのスポーツ関連施設のほか、学校、公園、集合住宅などが立地している。

赤羽台団地は、1958年（昭和33年）に接収解除された米軍東京兵器補給廠第３地区の跡地に、発足３年目だった日本住宅公団が建設した、23区内最大の大規模住宅団地である。

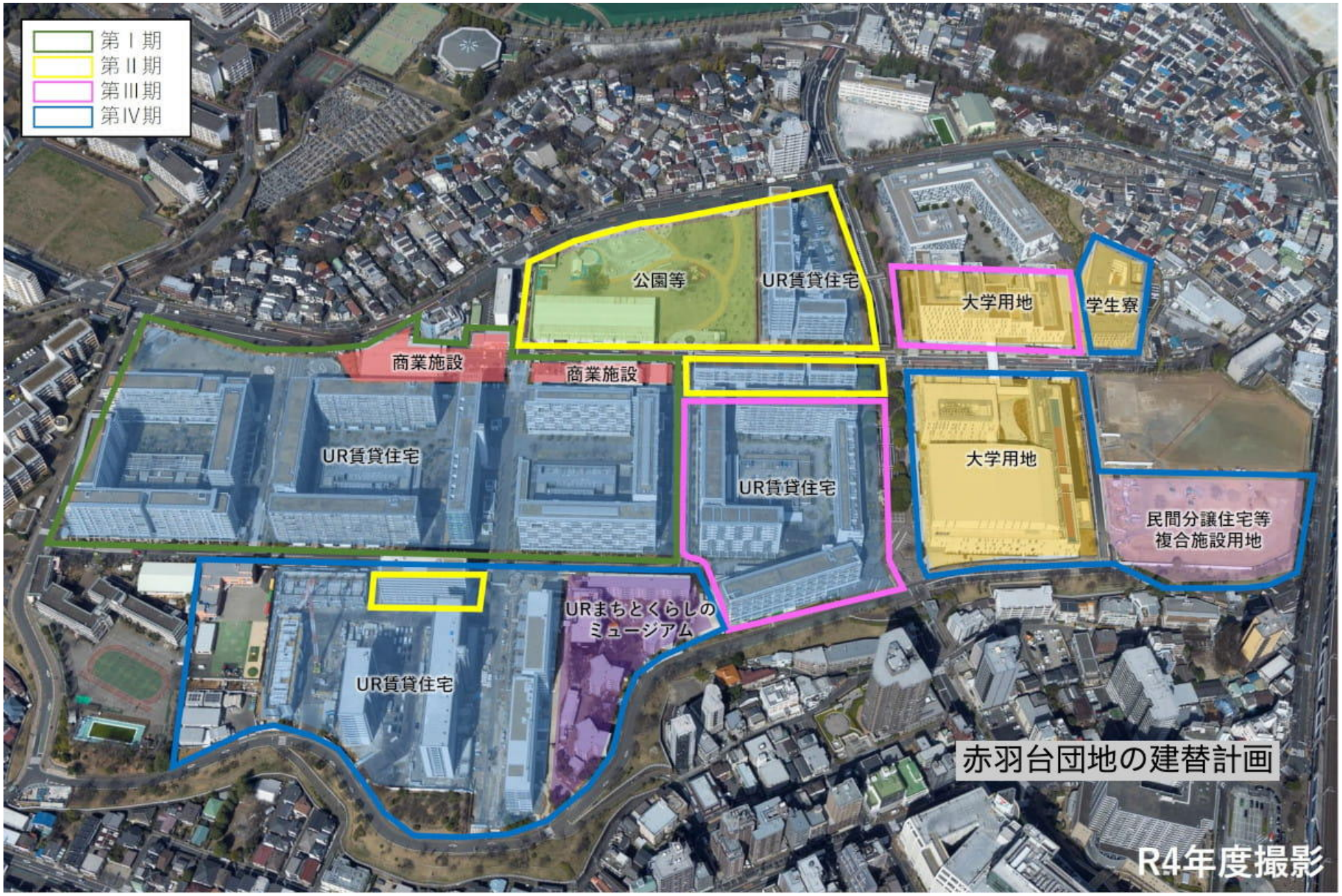
3,373戸と大規模・高密度な団地であり、多くはフラット型のいわゆる公団住宅だったが、間取りは１Kから4DKまで大小さまざまなプランが設けられ、また土地の形状と景観への配慮でポイント型やスターハウスも建てられた。計画地内には商店街や小中学校、集会所、郵便局や消防署もあり、1962（昭和３７）年から入居が開始された。


1:25,000 地形図「赤羽」
（1978年 国土地理院）
東北本線
新荒川大橋
荒川
足立区
北区
環状七号線
赤羽
赤羽台
赤羽西
赤羽南
赤羽北
志茂
岩淵町
岩淵水門
荒川水門
土木研究所支所
東芝ケミカル
公害資源研究所
国立病院
中外製薬
凸版印刷
長徳寺
常楽院
国語研究所
西が丘競技場
清水町
蓮沼町
大原町
泉町
宮本町
富士見町
稲荷台
大和町
前野町
浮間
東坂下
小豆沢
桐ヶ丘
志村
西が丘
十条仲原
上十条
中十条
東十条
神谷
王子
豊島
新田
善光寺
元郷
領家
鹿浜
西連寺
ひがししょうじょう
しょうじょう
あかばね

住棟の老朽化と生活スタイルの変化に対応するため、2000年（平成12）年に建替に着手、順次「ヌーヴェル赤羽台」への建て替えが行われている。

計画管理戸数は2,776戸、2006年から入居が始まっていて、2018（平成30）年10月末をもって従前入居者の戻り入居が完了した。

現在18号、19号（最終）の２棟が工事中だが、入居申し込みの受付は既に開始されている。


第Ⅰ期
第Ⅱ期
第Ⅲ期
第Ⅳ期
公園等
UR賃貸住宅
大学用地
学生寮
商業施設
商業施設
UR賃貸住宅
UR賃貸住宅
大学用地
民間分譲住宅等
複合施設用地
URまちとくらしの
ミュージアム
UR賃貸住宅
赤羽台団地の建替計画
R4年度撮影

現在のヌーヴェル赤羽台

2019（令和元）年、「赤羽台団地」に建てられていた建物４棟（旧41～44号棟）が、住宅団地の建物としては初めて国の登録有形文化財に登録された。

特に、その中でも、上から見てY字型・各階が3住戸となる建物は「スターハウス」と呼ばれた。

2023（令和5）年、それら保存建物に隣接して「URまちとくらしのミュージアム」が開館している。

登録有形文化財となったスターハウス

若園町第2号線
若園町第2号線
カフェ ド ブレス
花岡町第1号線
花岡町第1号線
田仲家
ター商会
花岡町第2号線
金城
御膳田第1号線
上名古屋町第3号線
城北自動車学校
金城一丁目第1号線
金城一丁目第1号線

名古屋市の中富住宅

　都営桐ケ丘団地は、旧陸軍赤羽火薬庫などの跡地に、1954年（昭和29年）から1976年（昭和51年）という長期間にわたり建設された、総戸数5,020戸、146棟の大規模住宅団地であった。

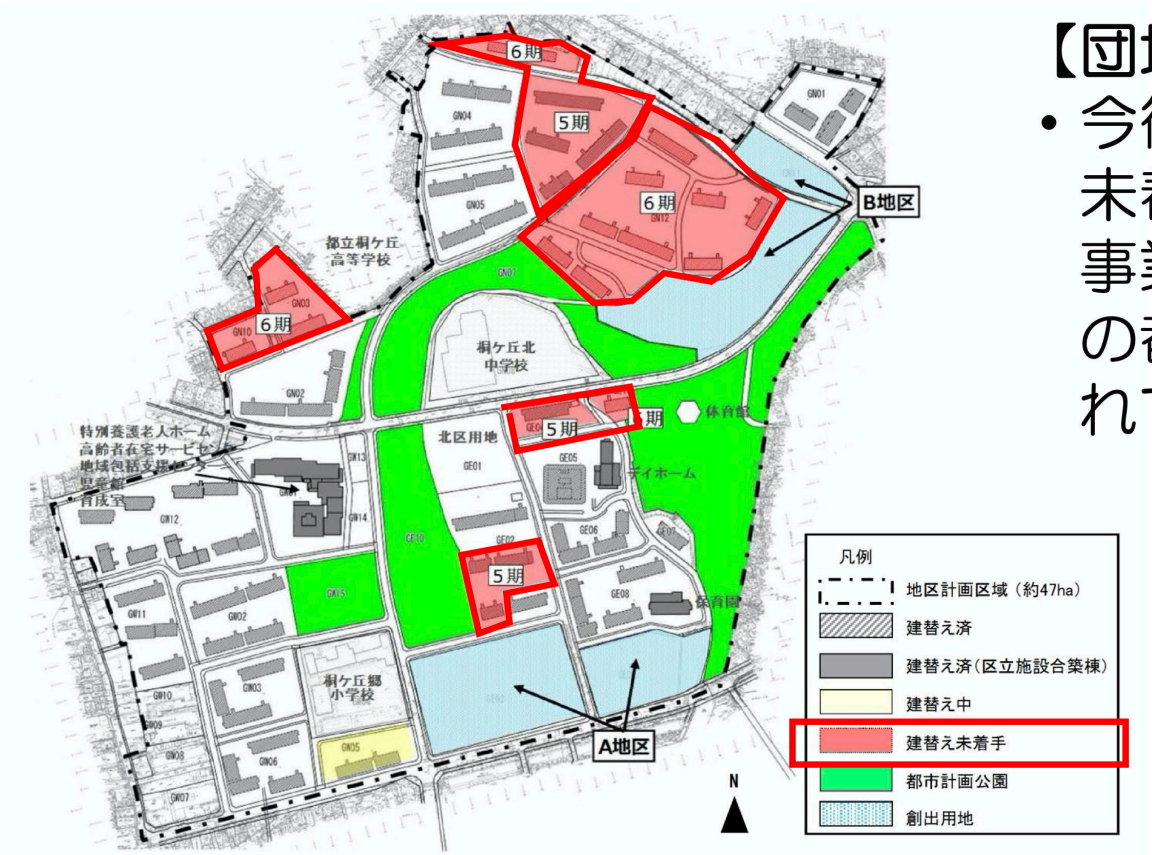
　老朽化にともない、1997年から都営桐ケ丘団地再生計画として建て替えが開始されていて、2022年時点で残っている当初の建物（都営桐ケ丘アパート）は僅か９棟、312戸となっている。

　建て替えられた棟は名称を変えており、桐ケ丘一丁目の棟は「都営桐ケ丘一丁目アパート」、同じく桐ケ丘二丁目の棟は「都営桐ケ丘二丁目アパート」と称している。総戸数は前者が2,322戸、後者が561戸、４～19階建てですべての棟にエレベータが備えられている。

　また他に「桐ケ丘赤羽台アパート（122戸）」「桐ケ丘赤羽北アパート（332戸）」も新しい住戸である。

　これら全てを合計すると3,600戸余りとなるが、今後さらに約1,500戸の建替えが進められる予定である。（2022年、東京都都市整備局ウェブによる）

今後のまちづくり　団地の建替え



提供：東京都

【団地の建替え】

- 今後、「第５期」建替事業の未着手分と、「第６期」建替事業を合わせて、約1500戸の都営住宅の建替えが計画されています。

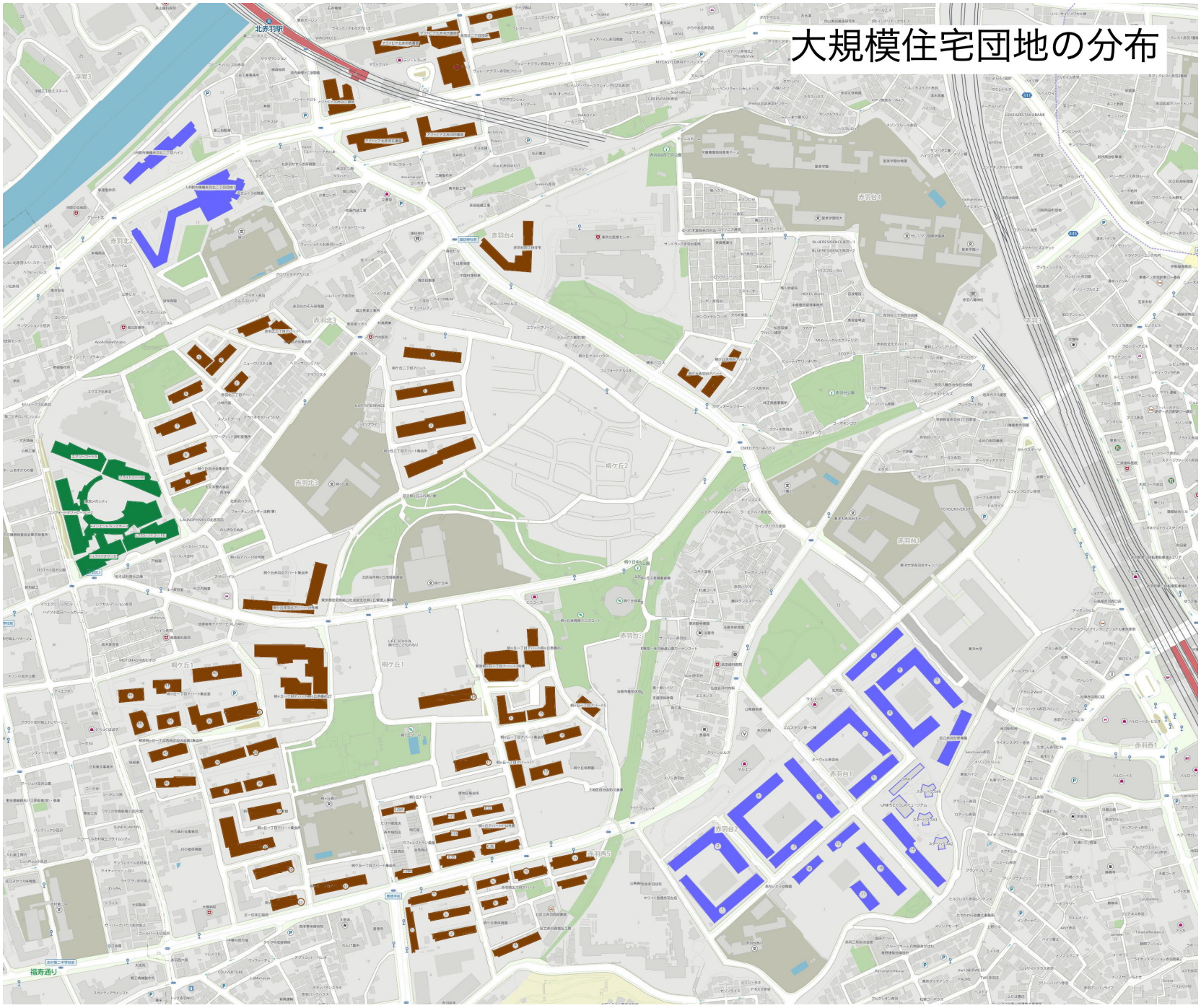
空から見た団地群（UR都市機構HP）

大規模住宅団地一覧

建設	名称	所在地	棟数	棟名称	階数	竣工日	備考
UR都市機構	ヌーヴェル赤羽台	赤羽台１・２丁目	19	1号棟～19号棟	8～12*	2006～2024	*12号棟のみ４階
UR都市機構	赤羽北二丁目団地	赤羽北２丁目	2	1号棟・２号棟	11・14	1989	
UR都市機構	赤羽北二丁目ハイツ	赤羽北２丁目	1		14	1986	
東京都	桐ケ丘アパート	桐ケ丘１丁目	2	E28A, E28B	5	1964~1966	
東京都	桐ケ丘アパート	桐ケ丘１丁目	7	E31～E45	4～5	1964~1967	欠番＝E37—E44
東京都	桐ケ丘一丁目アパート	桐ケ丘１丁目	32	2～47	6～18	2001～2011	欠番＝1, 4, 12–16, 18, 20–26
東京都	桐ケ丘二丁目アパート	桐ケ丘２丁目	4	1～4	7～8	2021	
東京都	桐ケ丘赤羽台アパート	赤羽台４丁目	3	1～3	6～10	1999	
東京都	桐ケ丘赤羽北アパート	赤羽北３丁目	1	59	13	2017	
東京都	赤羽西五丁目アパート	赤羽西５丁目	11	1～11	5～8	1971～1976	
東京都	赤羽西六丁目アパート	赤羽西６丁目	3	1～3	5～8	1976	
東京都	赤羽北三丁目アパート	赤羽北３丁目	9	1～9	4～5	1979～1982	
東京都	赤羽北二丁目第２アパート	赤羽北２丁目	3	1～3	5～12	1970	
東京都	赤羽北二丁目第３アパート	赤羽北２丁目	1	18	7	1995	
東京都	赤羽北二丁目第４アパート	赤羽北２丁目	1	1	17	2003	
東京都	アクトピア北赤羽	赤羽北２丁目	6	壱番館～六番館	7～17	1995～2003	分譲
住友不動産	東京メガシティ	赤羽北３丁目	5	A～E*	13～20	2004	*各棟の呼称名は省略

（東京都資料に加筆）

大規模住宅団地の分布



４．赤羽駅を挟んで

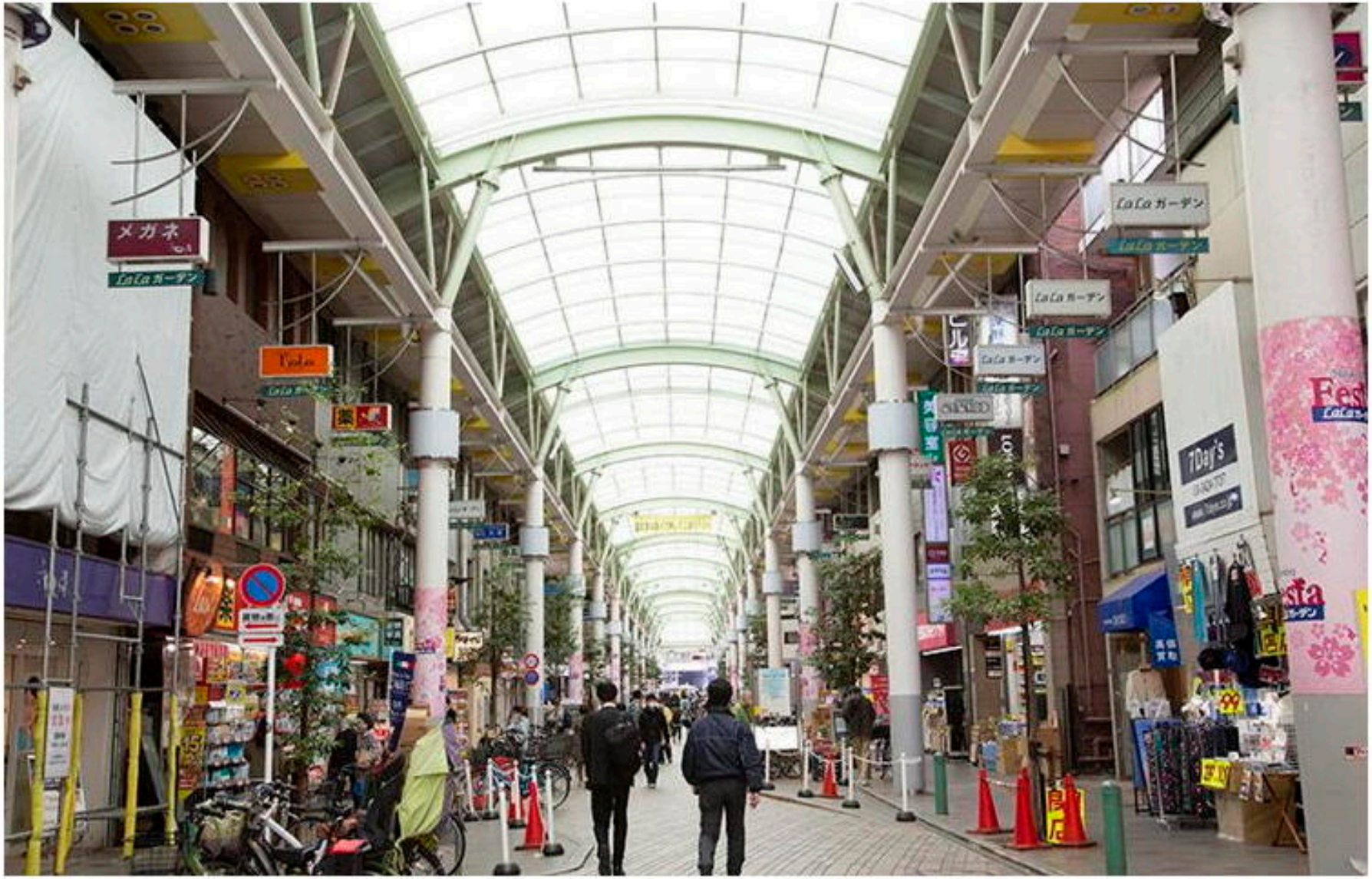
駅東口側の市街地は、元々「工員の街」として発展したことから、低価格の酒場やパチンコ店などが多く、2010年代には1000円出せば酔える「せんべろの街」として若者にも人気を高めた。

その一方で様々なトラブルも増加、2012年、東京都は赤羽一丁目、二丁目を都迷惑防止条例に基づき、客引きやスカウト、それらを行うために待機する行為などを禁止する区域に指定した。 2019年にはさらに暴力団排除特別強化地域にも指定された。

1997（平成9）年、東西に延びる「赤羽スズラン通り商店街」に東京で最大という天蓋アーケードが完成した。

中間地点の旧日本製麻工場跡地に食品中心の中型スーパーであるダイエーがあるものの、他は全て路面の地元商店で、なかなかの賑わいである。

現在は「LaLaガーデン」と命名されている。



LaLaガーデン商店街

一方西側は、住宅や小規模事業所が乱雑に線路際まで密集していたが、1979（昭和54）年、住宅・都市整備公団（現・都市再生機構）による都市計画事業に着手。

1986（昭和61）年、第１期工事として「パルロードⅠ」が完成。

第２期工事は1982（昭和57）年に着手、1996（平成８）年にパルロードⅡ、Ⅲの工事が完了した。

パルロードⅠ

アピレ（専門店街）＋赤羽アボードⅠ（住宅）

パルロードⅡ

ビビオ（専門店街）＋赤羽アボードⅡ（住宅）

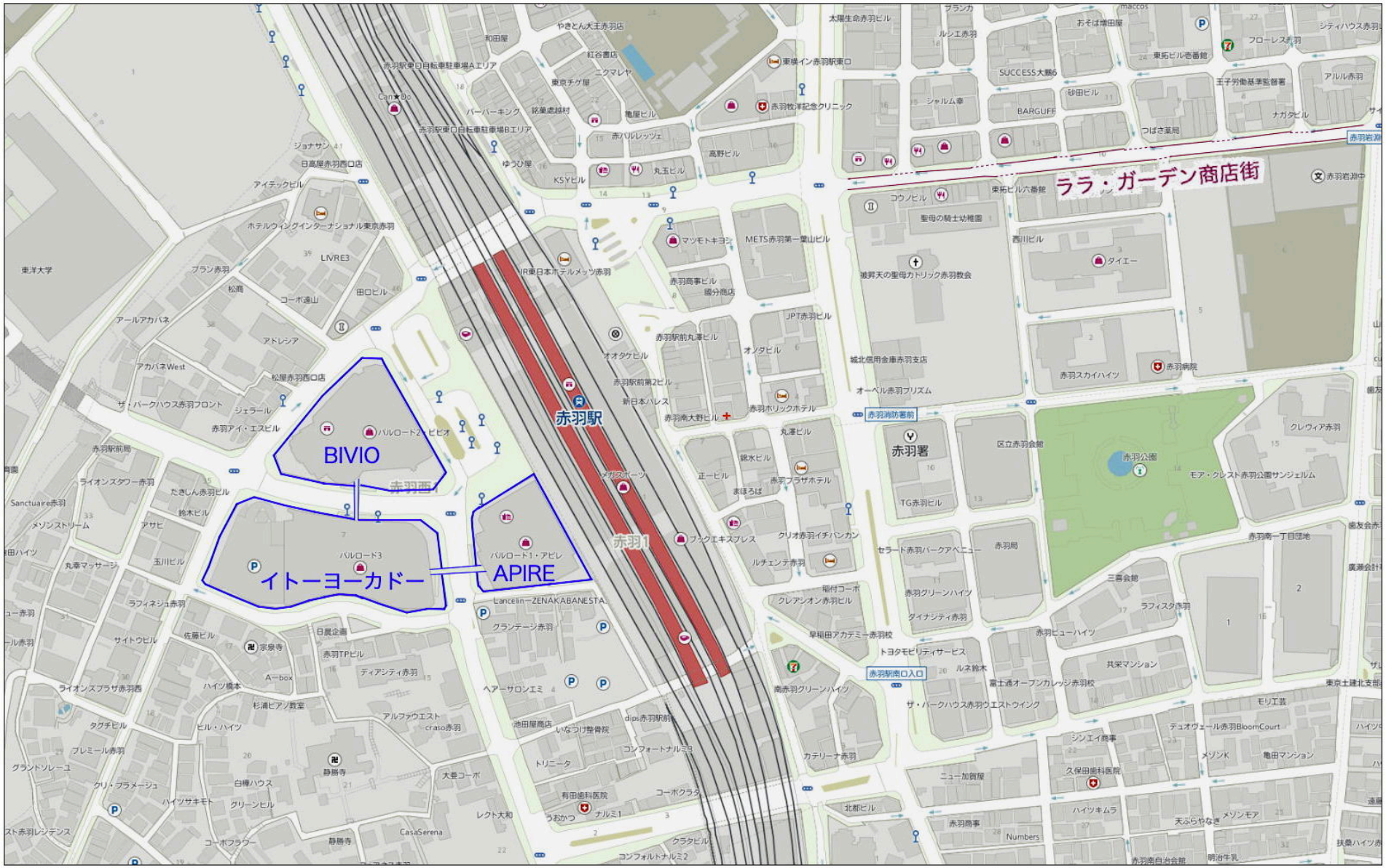
＋赤羽文化センター

パルロードⅢ

イトーヨーカドー赤羽店＋ループ館（専門店街）

＋日本フエルト本社（業務フロア）＋駐車場・駐輪場

「パルロード」という愛称は、公募により決定。



アーケード商店街の東口と大型店の西口